

The 16th AAAP Congress 報告書

東北大学大学院農学研究科修士1年 米野智之

このたび、2014年11月にインドネシア・ジョグジャカルタで行われた第16回「Asian Australasian Animal Production」大会に「Genome-wide association study of Disease Caused by *Mycoplasma hyopneumoniae* in Duroc」という題名でポスター発表してまいりましたので報告申し上げます。

【発表概要】

生産病の発病、重篤化には個体差があり、遺伝的に改良することで抗病性の向上が期待されます。本研究では、SNPアレイを用いてデュロック種しもふりレッドの肥育豚を対象に慢性呼吸器疾患である豚マイコプラズマ性肺炎（MPS）と相関関係にあるゲノム領域の探索を行っています。閾値モデルを用いた統計解析の結果、MPSにおける遺伝率は0.2程度であり、MPS感染豚と非感染豚のMPS抗病性育種価には差が認められました。またブタ第13番染色体の一部領域がMPS抗病性に関連がある可能性が分かりました。

【発表状況】

研究経験が浅く初めての国際学会ということもあり、不安も大きかったのですが終始和やかな雰囲気で行うことができました。また、私の発表に対して様々な人から多くの質問や意見を頂くことができました。今回の学会では、SNPアレイを用いた研究発表はそれ程多くない印象でしたが、興味を持っていただいたことに感謝したいと思います。さらに数多の興味深い研究を拝見、拝聴することができ、大変勉強になりました。

【大会の感想】

大会では外国ならではの着眼点による発表も多く、私の研究においても多くの刺激がありました。特に日本とは異なる気候条件下での研究については多くの驚きがありました。その一方で言語の壁を感じることも多く、自分の語学力の低さを痛感し、自分の英語能力を伸ばしていく必要性を感じました。生活面ではインドネシアということもあり、気候を心配していたのですが、存外快適に過ごすことができました。また、インドネシアの食文化を含めた生活文化にも触れ、貴重な体験をさせていただきました。最後になりますが、本大会の参加にあたりご支援をいただいた日本畜産学会様、諸先生様方に厚く御礼申し上げます。

